

令和5年度 中村報徳保育園自己評価

平成20年に告示された保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため保育の計画の展開や保育士などの自己評価の結果を踏まえ、保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない。」ことが明記されています。保育所では、保育士や保育所の自己評価を踏まえ保育の内容など、専門性の向上や保育実践の改善に努めていきます。

【評価基準】 A :大変良い B :良い C :一部検討を要する D :改善を要する

I 保育の理念					
子どもの最善の利益の考慮					
① 子どもの人権の尊重 ② 保育方針・保育目標					
評価項目	評価				評価と課題
	A	B	C	D	
1	理念が明文化されている。	○			・法人・保育所の理念が明文化されていることにより保育や保育サービスの役割や使命について専門性を生かし取り組むことが出来た。
2	理念に基づく基本方針が明文化されている。	○			・保育士の理念をもとに園の基本方針が明文化され、保育課程や事業計画に反映された。
3	理念や基本方針が職員に周知されている。	○			・理念や基本方針をもとに毎年保育課程を見直し、一人ひとりの保育士が取り組めるように研修を行った。
4	理念や基本方針が、保護者、地域の住民、関係機関等に周知されている。	○			・ホームページに保育園の理念や基本方針や園の様子など開示した。また保護者には入園時や進級式に保育課程を配布し保育園を理解していただくため入園時は特に丁寧に説明をした。
5	一人ひとりの子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	○			・一人ひとりの子どもににあった対応に心がけ、毎週金曜日にクラスで話し合いを設け、一週間の保育の振り返りを行った。一人ひとりの子どもににあった対応に心がけたが、保育士の対応に差があった。・毎週主任会議を行い、各クラスの状況を把握した。
II 子どもの発達援助					
1 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場					
① 健康・安全で心地よい生活 ② 子どもの主体的な生活 ③ 人とのかかわりを育む環境					
1	子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	○			・入園前の健康調査や検診など子どもの状況把握に努めた。また、登園時の視診を重視し、連絡帳や伝言ノート等の活用など保育士間の連携を持ち、一人ひとりの健康状態の把握が出来た。 ・アレルギー児、熱性けいれんを起こしたことがある児を把握し、緊急時の対応の研修を行った。 ・栄養士が園児の身長・体重管理して肥満など健康管理を行った。
2	食事を楽しむことができる工夫をしている。	○			・食育計画書を作成し、全職員共有しあった。食育活動で、子供たちに旬の野菜や果物など興味を持たせ、季節の物を取り入れ、目でも楽しんだ。 また、一人ひとりのペースに合わせ食事を勧めた。
3	乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている。	○			・子どもにあわせて献立が毎月立てられ、栄養士が各クラスを回り食事状況を確認した。毎月1回、給食検討会を行い、改善に取り組んだ、
4	健康診断・歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	○			・嘱託医による内科・歯科健診等保護者に結果を知らせ、治療が必要な園児には、保護者に病院受診進めた。 ・食後は、歯みがきを実施し仕上げみがきをした。
2 生活と発達の連続性					
① 子ども観・発達観の理解と共有 ② 発達過程に応じた保育 ③ 個人差への配慮 ④ 生活の連続性					
5	子ども一人ひとりを受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われている。	○			・発達巡回相談員に観察していただき、子どもの特性に合った保育の方法を探り、一人ひとり発達のペースや性格子どもの家庭環境等、異なることを認識したうえで話し合いながら必要な援助を考えるよう努めた。
6	障害のある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	○			・発達巡回相談員や、支援施設、保健センターと連絡を取り合い、その子に必要な支援等をおこなった。保護者とコミュニケーションが取れないケースもあった。
7	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている。	○			・他のクラスの保育士や早番、遅番の保育士間の伝達方法として連絡伝言ノートを活用し情報共有を図った。部屋の環境づくり、保育士の人数配置など子どもが安心して過ごせるように心がけた。
8	事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの持続性に配慮した対応を行っている。	○			・状況により手続きなどの方法や保育サービスの継続性を知らせた。 ・子育て相談の窓口として、登降園時に保護者からの質問等を受け付け、アドバイスをを行った、

3 養護と教育の一体的展開

0、1、2、3歳児における養護と教育の一体的展開

評価項目	評価				評価と課題
	A	B	C	D	
9 保育所の保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即した保育課程を編成している。		○			・理念や基本方針、発達過程を踏まえ毎年、年度末に各クラスで保育課程の見直しを行い改善した。それに基づき、新年度の保育体制・保育計画を作成した。 ・子どもとその背景や家庭の環境、保育時間を考慮して編成した。
10 定められた手順に従ってアセスメントを行っている。 * アセスメント(子どもの育ちや保護者の状況等の実態を明らかにし、保育や保護者支援の計画や実施に反映するための事前評価)		○			・入園時には子どもたちの養育状況・予防接種・保健センターでの健診状況・保護者が見る発育状況など資料を提出してもらい一人ひとりの環境の把握した。また、保護者との面接や入園前検診を受けてもらい子どもや保護者の状況を把握し、どのような支援が必要なのか判断し、指導計画に反映した。
11 指導計画を適切に作成している。	○				・保育課程を基に子どもの状況と発達過程を踏まえ指導計画を作成した。子ども一人ひとりの個人計画を立て、一人ひとりの成長を計画に取り入れた。
12 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	○				・子ども一人ひとりの個別指導計画を見直し・話し合い・計画を立てたが、時間のとり方が十分ではなかったクラスもあった。
13 保護者に関わりや子どもの活動などについて理念や方針にのっとった方法が文書化され保育が提供されている。	○				・保育の実施を目的としたマニュアルは作成され状況より見直され、保護者に伝えなければならないことは、ホームページやメールにて伝えた。
14 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。		○			・保育士の自己評価を基盤として保育所の自己評価を行い、保護者からの苦情対策についてもプライバシーを尊重し、対応、改善を公表した。対応に対する経過記録や会議録など書面に記載し、保護者や職員間で確認した。
15 一人ひとりの子どもに関する保育・保育サービス実施状況の記録が適切に行われている。		○			・一人ひとりの保育経過や保護者からの個人情報から児童票を作成し、各クラスで管理した。記録は、クラス職員間で情報共有されたが、指導計画に反映された。
16 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	○				・個人の情報に関しては、個人情報保護の観点からクラスの担任以外出入りできないように鍵のある場所に保管した。個人情報については、入園前に3項目について確認を取り、それ以外の開示事項に関しては保護者に確認を取った。
17 一人ひとりの子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している。	○				・主任会議を行い、子どもたちの状況等を会議録に記録、回覧し職員に周知した。
18 乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている	○				・乳幼児保育の環境設定として明るく衛生的で、暖かな雰囲気があり、尚安全性に配慮しながら子どもが安心して過ごせる空間と活動スペースを考え配置した。
19 1・2歳児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	○				・養護と教育の適切な環境の基に保育を行い、流行性の感染症状況把握と保護者への情報提供、お茶による水分補給をした。 ・金曜日保育士間で子ども達の保育の持ち方や流れなど環境についてまとめ翌週の保育につなげた。

4 環境を通して行う保育

① 保育の環境(・人的環境・物的環境・空間・自然や社会事象等) ② 環境の構成・再構成

評価項目	評価				評価と課題
	A	B	C	D	
22 生活にふさわしい場として子どもが心地よく過ごすことの出来るような人物・物的環境が整備されている。	○				・生活の場としての物的・人的環境への計画的構成など工夫しての保育がなされているが、家庭的にくつろげる場としての整備、工夫をしている途中で、試行錯誤をしながら場面設定をした。
23 子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動的ができるような環境が整備されている。	○				・生活習慣が身につくために一人ひとりの個人差を考慮しながら、視覚的工夫や声かけをして丁寧に関わるように心がけた。
24 子どもが主体的に活動し様々な人間関係や友達との協同的な体験が出来るような人的・物的環境が整備されている。	○				・子どものやろうとする気持ちを大切に受け止め、安心して取り組めるように保育を考え、子どもたちが満足感や達成感を感じられるような取り組みを増やした。
25 子どもが主体的に身近な自然や社会とかかわれるような人的・物的環境が整備されている。	○				・戸外活動などの中から自然を感じ、季節などを感じ子どもの興味関心を増やしていけるような環境設定など工夫をした。散歩コースを設定し、全職員でコースの安全確認した。また、報告書をさ作成した。
26 子どもが言葉・豊かな言語環境に触れたり、様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が整備されている。	○				ゆっくりと丁寧に話しかけたりわかりやすく絵を取り入れたったりした。

Ⅲ 保護者に対する支援					
1 家庭との緊密な連携					
① 子どもの成長の喜びを共有 ② 保育内容等の説明・応答責任 ③ 子育てに関する相談・援助 ④ 保護者への個別支援					
1	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	○			・献立表・食育便り、食育のようすをホームページなどで保護者に知らせ、食への関心を持てるような取り組んだ。
2	家庭と子どもの保育が密接に連携した保護者支援を行っている。		○		・送迎の際の対話や連絡帳の記録などの日常的な情報交換に加えて、個別に相談に応じたり・面接などを行った。
3	子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けている。	○			・3年ぶりに保育参観を行った。その中でふだん保育士となかなか話ができない保護者に対し、場を設けたクラスもあった。
4	虐待に対応できる保育所内の体制の下、不適切な養育や虐待をうけていると疑われる子どもの早期発見及び虐待の予防に努めている。	○			・子どもの様子や保護者の態度、外傷・変化に目をむけ朝の視診を重視し、保護者とのコミュニケーションを大切にした。 ・虐待防止情報など日々保育士間の情報収集など早期発見及び虐待の予防に努めた。
2 地域における子育て支援					
① 保育所機能の開放 ② 関係機関との連携 ③ 情報提供					
5	子どもと地域との関わりを大切にしている。	○			・保育まつり行った。 ・散歩などで近隣の方と挨拶を交わした。
6	地域の福祉ニーズを把握している。		○		・保育園としての役割を果たしているが、地域のニーズを把握しきれていないところがある。
7	地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	○			・サマーボランティア等の受け入れを積極的に行った。
8	事業所が有する機能を地域に還元している。	○			・ホームページに子育て支援情報を掲示した。
9	必要な社会資源を明確にしている。 (*保育の質の向上のために連携が必要な機関や団体)	○			・社会福祉事務所や児童相談所、保健センター、子育て支援施設などの関係機関・団体との情報共有化した。
10	ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	○			・受け入れの目的など明文化され、職員にその意義や方針など理解し、対応した。
11	関係機関等との連携が適切に行われている。	○			・園児の状況により関係機関と連携し、適切な対応が図れるようにした。
12	保育所を選択するために必要な情報を積極的に提供し分かりやすく説明している。	○			・ホームページなどに園の情報を公開し、市政だよりやこども家庭課などに情報を提供した。
13	保育・保育サービスの開始にあたり保護者等に説明し同意を得ている。	○			・保育の必要量について時間の利用法や延長保育について保育に必要な情報は入園説明やその場面場面で説明した。
Ⅳ 保育を支える組織的基盤					
1 健康及び安全の実施体制					
① 保育の計画 ② 保育士等の自己評価 ③ 保育所の自己評価 ④ 研修					
評価項目	評価				評価と課題
	A	B	C	D	
1	緊急時(事故・感染症の発生時など)における子どもの安全確保のために、組織として体制を整備されている。	○			・状況に応じ対策は練り、保護者にも周知した。保育園でのマニュアルがあり毎年改善され体制を整えて対応にあたった。(食糧の備蓄は3日分確保)
2	災害時に対する子どもの安全確保のための取り組みを行っている。		○		・地震、津波、大雪などの災害時に対する子どもの安全確保のためのマニュアルがあり取り組みを行った。引き渡し訓練を行った。
3	子どもの安全確保のためにリスク(子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対策の検討)を把握し、対策を実行している。	○			・事故や安全に対する対応など環境から取り組み、どう対応するかクラスで話し合い、対策をした。 ・事故の報告や、子どもの視診を重視し、安全に安心して過ごせるように心がけた。
4	アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、主治医からの指示を受け適切な対応を行っている。	○			・アレルギーや、慢性疾患のある子どもに対しては、職員会で全職員に周知し、他のクラスの保育士が保育室にはいってもわかるように掲示した。 ・マニュアル化もされているため、各クラスで話し合いをした。
5	調理場、水周りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような体制が整備されている。	○			・食中毒発生時などの対応マニュアルは整備され、給食の衛生管理や毎朝健康状態のチェックなどマニュアルにそって対応をした。 ・クラスの水周りの衛生にも心がけた。

2 職員の資質向上							
① 保育の計画		② 保育士等の自己評価		③ 保育所の自己評価		④ 研修	
6	保育・保育サービスの質について定期的に評価を行う体制を整備している。		○				・金曜日一週間の保育の反省で翌週の改善課題を見つけ計画を作成した。また、保育士自己評価を踏まえ保育所自己評価を行った。
7	保育士等が主体的に自己評価に取り組み、保育の改善が図られている。	○					・記録や職員間の話し合いなどを通じて保育実践を振り返り自分を見直す機会となった。
8	評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	○					・自己評価の結果を踏まえ改善事項に対して計画をたて取り組んだが必要に応じて中・長期計画が必要なものもあった。
9	必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	○					・園児に対する保育士配置など人員体制は取られ、人事管理がされた。
11	職員の就労状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	○					・職員状況により改善されるしくみは構築されている。また、組織として職員が働きやすい環境づくりに心がけた。・ノンコンタクトタイムを導入した。
12	職員の福利厚生や健康の維持に積極的の取り組んでいる。	○					・働きやすい職場の雰囲気作りやコミュニケーションなどの配慮をした。
13	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示され、個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	○					・世間でニュースになっていることに関し、勉強会を行った。
14	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	○					・研修報告や感想など自己分析し全職員に回覧した。・少しずつオンライン等で研修が始まってきた。
15	実習生の受け入れと育成について基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、積極的な取り組みをしている。	○					・実習生の受け入れに対する体制を整え、希望する学生に対して効果的な実習が出来るようにした。
3 運営・管理、社会的責任							
① 法令等の遵守		② 個人情報取り扱いと苦情解決の責任		③ 施設長の責務			
評価項目		評価				評価と課題	
		A	B	C	D		
16	経営や保育に関する中・長期計画が策定されている。	○					・中・長期計画が策定され、経営状況を分析し改善すべき課題などを発見する取り組みを行い、全職員に情報を公開した。
17	事業計画の策定が組織的におこなわれ職員や保護者などに周知されている。	○					・年間の行事計画や組織分担など全職員で話し合った。
18	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	○					・苦情受付箱を設置し、保護者が利用できるように説明をしている。・送迎時、保護者との会話を持てるよう心掛けた。
19	子ども・保護者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	○					・園のマニュアルで組織化され、保護者には入園のしおり等で説明した。
20	苦情解決の仕組みが確立され保護者等に周知する取り組みが行われ、苦情解決の仕組みが機能している。	○					・園のマニュアルで苦情解決の仕組みが組織化され、保護者には入園のしおり等で説明した。
21	施設長は自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、理解されるように取り組んでいる。	○					・施設長は、保育園で起こった事の全責任を負っていることを職員に周知し、保育を取り巻く環境や情勢について変動があった場合や状況の変化を随時職員に説明してくれた。
22	遵守すべき法令等は正しく理解するための取り組みを行っている。	○					・勉強会や主任会議等で施設長が基本的な関連法令や保育情勢について説明し、職員の専門性の向上を図った。
23	質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	○					・保育所の課題を把握し正しく理解した上で、改善の具体的な取り組みを明示した。
24	施設長は経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに十分な指導力を発揮している。	○					・子どもの最善の利益を考慮し経営や業務の効率化と改善に向けて、人事、労務、財務の面から判断し取り組んだ。
25	事業経営を取り巻く環境を的確に把握されている。	○					・社会福祉事業全体の動向、地域での保育園に対する動向など園長先生から説明を受け、取り巻く市や県、国の情勢を把握し状況に応じ対応した。
26	保護者からの意見に対して、迅速に対応している。	○					・苦情以外の保護者からの意見に対して検討し対応した。保護者には園の対応等を話したうえで納得のいく返答を心掛けた。